

## 出張報告

21. 3. 26  
防衛大臣政務官  
長 島 昭 久

### 1 期間

平成 22 年 3 月 19 日（金）～22 日（月）

往復の飛行時間 約 36 時間、現地滞在時間 7 時間 30 分

### 2 訪問場所

(1) ポルトー・フランス国際空港 写真①

(2) 自衛隊宿営地（視察） 写真②

(ア)自衛隊活動概況

① 「倒壊した美術館」の瓦礫除去（2月22日～3月19日）

② 「隣接キャンプ予定地」の造成（2月24日～3月下旬予定）

③ 国連関連施設の建物診断

④ 宿営地整備

コンテナハウス工事準備（貨物コンテナの移動）。コンテナについては業者との契約終了。今後テント（約90張）からコンテナに移行。

⑤ 今後の国連任務の活動候補（全て調整中）

経済財政省支庁舎の瓦礫除去、ゴヤビエ山通信塔取付道の補修（24日から活動開始予定）

その他「避難民キャンプ」の造成や「病院」の瓦礫除去、河川の浚渫等について国連側と調整中。

(イ)その他・全般状況

① 派遣部隊の状況

派遣救援隊については、2次要員への交代が終了。1次隊長が帰国する3/22時点の人数は330名（技官3名含む）。

② 国連等からの評価

隊長らが MINUSTAH 司令官（ブラジル人）等と懇談した際、自衛隊の迅速な派遣や活動ぶりについて評価。派遣決定は韓国とほぼ同時だが、展開は韓国軍よりも早かったとして称賛。

また、米軍との懇談の際、在ハイチ米国大使館から日本の宿営地に翻る日の丸を見た時は心強かった旨米側から発言。日本側からも、

宿営地から見える米国大使館は心強い旨回答。

③ 現地住民との関係

他国軍は英語が通じるが、現地住民は仏語又はクレオール語しか解さない場合が多く、現地住民とのコミュニケーションが課題。

自衛隊は現在、常勤雇用の現地人6名とドライバー5,6名を雇用。彼らは総じて真面目であり、日本語を習得して自衛隊員とコミュニケーションをとろうとする意欲も高いとのこと。

④ 生活環境

i. 衣

1次要員は、当初の1週間は洗濯できず。2月中旬頃から不定期にクリーニング。あせもに悩まされる。

2次要員は戦闘服1着/週基準にクリーニング（現地業者を利用）。他の物は入浴時に個々に洗濯。

ii. 食

1次要員は3食とも戦闘糧食（冷たいまま）。

2次要員は朝：パン（現地の業者から購入）、昼：戦闘糧食（温める）、夜：米の炊き出し、戦闘糧食、即席みそ汁。

iii. 住

1次要員は6人用天幕に4~5名。虫に悩まされる。シャワーもなし。トイレは簡易トイレですぐに満杯。家族との通信手段なし。ブラジル隊のPXで日用品のみ購入。

2次要員は8人用エアコン付き天幕に6名。野外ベッド使用のため、蟻等が登れない。風呂を自隊で作成（湯船には入らず）。くみ取り式リーストイレ。1人10分/週の家族との通話。ブラジル隊及びMINUSTAH司令部のPXで日用品及びし好品の購入。

6月以降雨季となり、50mm/時もの雨が降ることから、テントからコンテナへの移行は必須。視察前日に地震後最大の降雨があったが、テント内は川のように泥水が流れ、荷物が泥・水浸しに。現在、砂利が敷設されているが、簡易舗装など、足下の整備が今後の検討課題（ブラジル隊の宿営地は簡易舗装）。

⑤ 部隊からの要望事項

派遣部隊約350名のうち、国連の部隊として登録されている

(UNE: United Nations Element) のは190名のみ。残りの約160名は自国支援部隊 (NSE: National Support Element) として、3か月以上行動した場合に支給される国連メダル等が得られない状況。活動した証となるメダルについて同じ部隊で支給される隊員とされ

ない隊員がいるのは部隊の士気にも関わるので、国連要員への地位変更を行うなどにより改善を要望。

(3) ミュレ MINUSTAH 事務総長特別代表代行（表敬） 写真③

ミュレ代表より、自衛隊は MINUSTAH 拡大後最も早く部隊派遣し、その活動内容もプロフェッショナルかつ積極的なものであり評価している、ハイチの人々は自衛隊に感謝。今後は学校の瓦礫除去を行い、学校再開につなげるような活動も重要。また、MINUSTAH の施設部隊の人数が上限に達しておらず、更なる派遣について検討をお願いしたい旨発言。

岡田外相より、瓦礫の除去や避難民キャンプの造成支援については自衛隊を活用して欲しい、追加派遣については政府部内で議論したい旨回答。自衛隊派遣部隊への国連メダルの支給について、彼らの活動の証であり、生涯の思い出になるので、国連要員以外の 160 名にも支給して欲しい旨要請し、ミュレ代表より検討する旨回答。

(4) プレヴァル大統領及びベルリーブ首相（表敬） 写真③

プレヴァル大統領より、日本の支援に対しては地震前も後も感謝している。今後はハイチの真の復興のために、首都のみならず、全ハイチの復興支援について検討していただきたい旨発言。

岡田外相より、支援に関しては、明確な優先順位づけと計画策定が重要、日本の財政支援は国民の税金が使われるものであり、国民への説明責任との観点から、支援の使途についても積極的に関与していきたい旨指摘。

(5) ポルトー・プランス市内視察 写真④

NGO との懇談及び周辺被災地の視察、避難民キャンプ化したシャン・ド・マルス広場及び大統領府等、市内の被災状況を視察。甚大な被災状況や国家インフラの欠如、広範囲に及ぶ貧困の状況について確認。

(以上)